

医報

Vol.22 2024.10

目

次

巻頭言 総合病院鹿児島生協病院 那須拓馬 1

臨床研究

保存的治療を行った Stanford B 型急性大動脈解離の偽腔の変化と中・長期予後 馬渡耕史 2

症例報告

COVID-19の自宅療養中に脳梗塞を合併した1例 那須拓馬 9

肝内胆管癌の1剖検例 那須拓馬 11

内視鏡生検にて診断し得た十二指腸幽門腺腫の1例 那須拓馬 17

小腸原発単形性上皮向性腸管T細胞リンパ腫の1例 那須拓馬 21

著書・論文

心筋梗塞心筋の石灰化と心膜の石灰化 馬渡耕史 27

鹿児島県の腎移植患者および管理施設の現況

—腎臓内科医の立場からみた疫学的調査報告— 佐伯英二 29

腎移植、離島と本土の相違点は何か？

—鹿児島県の疫学的横断調査の結果を踏まえて— 佐伯英二 36

Primary grade 2 neuroendocrine tumor of the ileal mesentery: a case report 森下繁美 42

もう騙されない！外来に現れるミミック疾患 繰り返す扁桃炎 谷本隆彦 48

著書・論文一覧 50

学会発表・抄録 51

臨床病理症例検討会（第423回・第424回） 87

生協だより 110

投稿規定について 121

巻 頭 言

総合病院 鹿児島生協病院
那須 拓馬

はじめに

鹿児島生協病院医報第22巻を無事発行することができました。ご協力いただいた皆様に、医報編集委員長として、心より御礼申し上げます。

世界では

2023年10月7日、パレスチナ・ガザ地区のイスラム組織ハマスが、イスラエル領内に数千発のロケット弾を撃ち込むとともに、イスラエル領内に戦闘員を侵入させ、多数の民間人を殺傷・拉致するという暴挙におよびました。これに対して、イスラエルの首相は「戦争状態にある」とし、大量のミサイルをガザ地区に発射、さらに地上部隊による侵攻を行い、ガザの民間人の大量殺戮におよびました。今回の事態の背景には、「天井のない監獄」ともよばれる、多年にわたるイスラエルによるガザ地区の封鎖、暴力的占領の拡大があることを忘れてはならないと思います。

国内では

2023年3月、全世界にむけて放送されたBBCのドキュメンタリー番組をきっかけとして、ジャニーズ事務所のジャニー喜多川元社長による未成年への性虐待の問題性が広く認識されることとなり、被害者の救済にむけた動きへとつながりました。2023年版の「過労死等防止対策白書」には、声優・アナウンサーの14.3%、俳優・スタントマンの11.1%が「性的関係をせまられた」という調査結果が記載されています。空気のように広がっていた「芸能界なんてそんなもの」という「常識」の異常性を、私たち自身がつきつけられているのだと思います。

2023年9月1日、関東大震災から100年をむかえ、テレビなどでも様々な特集が組まれました。震災そのものの被害や教訓とともに、官憲や自警団による多数の朝鮮人の虐殺に関する報道もありました。この伏線として、日本による韓国の植民地支配に対する、抗日独立運動の大きな広がり存在が指摘されています。暴力的に他国を支配し、言葉を奪うという、人権侵害の極致ともいえる日本の行為が、さらなる人権侵害を生み出したという関東大震災のもう一つの側面を、あらためて心に刻むとともに、亡くなられた方々に心より哀悼の意を表したいと思います。

2023年9月27日、未救済の水俣病被害者を救済し、水俣病の全面解決をはかることをめざして全国でたたかわれている、「ノーモア・ミナマタ第2次訴訟」において、その最初の判決が出されました。大阪地裁は、原告128人全員を水俣病と認定し、被告の国と熊本県、加害企業のチッソに対し、総額3億5200万円の賠償を命じました。この判決は、メチル水銀曝露と四肢末梢優位の感覚障害および全身性感覚障害との間の疫学的因果関係、遅発性水俣病の存在、特措法対象地域外・年代外の曝露を認める画期的な判決でした。微力ではありますが、水俣病検診にかかわり、水俣病の診断を行ってきた医師の一人として、私自身、勇気づけられる判決でした。判決後、チッソ、国、熊本県は、いずれも控訴しましたが、被害者は高齢化しており、一刻も早い救済が望まれます。

鹿児島生協病院では

2023年10月22日、地元のお祭りである“谷山ふるさと祭り”が開催され、鹿児島生協病院は実に4年ぶりとなる、踊り連を結成しての参加となりました。インフルエンザや新型コロナがくすぶり続ける中、交流会は開催できなかったものの、徐々にコロナ禍以前の日常が戻りつつあることを感じることができました。

おわりに

2023年は、“人権”がクローズアップされた1年であったように思います。医報の発行は「人権を尊重し、安全で信頼される医療を、地域の人々とともにすすめます」という鹿児島生協病院の理念の実践そのものです。私たちの学術活動のレベルを確認し、未来に向かう力とするため、医報の発行をしっかり継続したいと思います。皆様には、今後とも医報の発行にお力添えいただくことをお願いし、巻頭言とします。